

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	8
➤ 会議・イベント案内	9
➤ 書積等の紹介	9
➤ 会員募集中	10

巻頭書記

いよいよ夏が到来し、涼を求めて水辺が恋しくなる季節となりました。

3か月に渡り皆様より募集しておりました桜の水辺風景写真も、15名の会員皆様よりコメントとともに素敵なお写真をご応募頂き、今月中には2010年以来三冊目となります「桜の水辺写真集」としてJRRNウェブサイトを通じてご紹介させていただきます。

本号では、桜写真応募の御礼とともに、5月下旬にフィリピンで開催されました「第1回フィリピン河川サミット」の参加報告(速報)、また連載記事として『川

と人』めぐり(和泉川編)」及び「水辺からのメッセージ No.37(古河総合公園編)」を掲載しております。

新年度を迎え早くも2か月が経過しましたが、JRRN事務局では、会員皆様との協働活動として今年度の様々な企画を現在準備中であり、企画案として整理した後に、本ニュースレターやウェブサイトを通じ皆様にご案内させていただきます。

引き続き、会員皆様からのJRRN諸活動に対するご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

『桜のある水辺風景 2012』写真応募のお礼と写真集発行予告

水辺の美しさや人々との関わりについて考える切掛けづくりを目指して始めた『桜のある水辺』の風景写真の募集は、今年で3回目となります。

募集期間の平成24年3月1日～5月31日にかけて、15名の方より素敵なお写真をご応募頂きました。

応募いただきましたお写真とコメントは『桜のある水辺風景 2012』写真集」として、取りまとめるべく現在編集中です。写真集完成後は、以下のホームページにおいてPDFファイル形式で公開させていただきます。

◆公開先

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

同ホームページにおいては、過去2回の『桜のある水辺風景』の写真集も合わせて公開しております。合わせてご覧下さい。

また、桜のみならず、葉の緑に彩られた水辺も、また美しいものと思います。これら写真集より興味を持たれた水辺を訪れてみてはいかがでしょうか。

なお、皆様からご応募頂きました桜のある水辺風景写真を通じて、水辺の魅力や美しい日本の春を再認識することができました。この度、ご応募頂きました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも引き続きJRRNに皆様からのご協力・ご尽力いただけますようお願い申し上げます。

(JRRN 事務局・伊藤将文)

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

第 1 回フィリピン河川サミット参加報告(速報)



2012年5月30日(水)～6月1日(金)にかけて、フィリピン・イロイロ(Iloilo)市の Centennial Resort Hotel and Convention Center を会場に『第 1 回フィリピン国際河川サミット(1st PHILIPPINE INTERNATIONAL RIVER SUMMIT)』が開催され、JRRN 事務局から 1 名が参加してまいりました。



サミット会場の様子

本行事は、河川管理及び河川環境改善に関わる課題とその克服策、また優れた事例を共有することを目的に、フィリピン国内の地方自治体職員や NGO、実務者を主対象に今回初めて開催され、海外からの参加者約 80 名を含む約 1,200 人が会場に集いました。

「河川・流域ガバナンス」「生物多様性管理とエコツーリズム」「気候変動と減災管理」「水質と水資源管理」の 4 つのテーマに分かれてフィリピン国内及び諸外国の最新の知見が紹介され、特に「パートナーシップ」をキーワードとするステークホルダーとの連携を軸とした今後の河川管理のあり方について議論されました。



ハロ(Jarro)川の河川整備事業紹介ブース

また、イロイロ(Iloilo)市内を流れるハロ(Jarro)川の洪水対策及び河川環境改善の取り組みなど、フィリピン国内の河川・水環境に関わる様々な展示も行われ、横断的な情報共有に向けた関係者の交流がなされました。



閉会式での Benigno S. Aquino III 大統領の演説

サミット最終日にはフィリピン大統領も駆け付け、「My River, My Life」をテーマに、イロイロ市を含む Jalaur 川総合開発事業と地域経済発展に向けた演説を行うなど、国全体を挙げての河川サミットとなりました。

なお、本行事の詳細報告は、6 月中に JRRN ウェブサイトでご紹介させていただきます。

(JRRN 事務局・和田彰)



川系男子の『川と人』めぐり No.2 ~和泉川~

坂本貴啓 (筑波大学大学院博士前期課程生命環境科学研究科 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』 めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしようがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

1. 五月晴れの川めぐり日和

新緑の若々しい緑が芽吹く頃、神奈川県和泉川を訪ねた。よく、多自然川づくりに関する書籍などで目にする川で前から気になっていた。

研究室の後輩2人と共に見学会の待ち合わせ場所の相模線の三ツ境駅へ。30分近く早くついたが駅の改札を出て広場にはもう待っている人がいた。今日の和泉川見学会の主催者の吉村伸一さんだ。吉村さんは元横浜市の土木担当の職員で当時の横浜の河川事業に携わっていた。27年間職員の仕事をし、50歳になった時に退職。退職後は(株)吉村伸一流域計画室を立ち上げ日本各地の河川再生事業に尽力されている日本の河川再生のプロの一人だ。今日はそんな吉村さんが当時河川再生を手がけた和泉川を『善福寺川を里川に返す会(通称:善福蛙の会)』の人達と共に見学する。

和泉川は境川の支流で横浜市管理する二級河川である(図1)。流路延長は9.42km、流域面積11.5km²で源流を瀬谷市民の森に発し、瀬谷区、泉区を流れ境川に合流する。和泉川周辺は相模原台地が広がっており、その谷地に沿って和泉川が流れる地形構造になっている。そのため台地から川までは斜面林が広がっており、河畔林が張り出している場所が多い。

集合場所で待っていると大学の先生、学生、行政、市民団体、コンサルなど40人以上の人らが集まってきた。5月の少し強い日差しの下で見学会ははじまった。



図1 和泉川流域図(今回歩いた対象区間)

2. 貯めることも、美しく

三ツ境駅からバスに乗り、宮前橋付近で下車。陸地化した部分と流路が入り混じる和泉川だ。住宅地の中を流れる都市河川でよくみる光景だ。しかし、吉村さん曰く、25年前にここまでの復元計画を立てるのには相当な努力が必要だったという。吉村さんの案内のも

と、下流へ向けて歩き出した。

川の堤防に沿って歩いていくと、堤防が急になくなった。堤防がなくなった先は階段で降りることができ、水辺に近づける。一瞬親水公園かと思ったが、ここは水を貯めこむための遊水地への入口、越流堤である(写真1)。宮沢遊水地は和泉川の出水時に最大で48.650m³水を貯めることができ、約20m³/sのピークカット効果があるという。越流堤は取り外し可能な角落しの構造になっており、万一、河床低下などで越流がうまく起きない場合は板を取り外し、越流が円滑にできるようにしている。

またこの遊水地の機能は治水だけにおさまらない。様々な仕掛けがある。1つは風景。この宮沢遊水地は、地形に沿って台地と台地の谷間を利用して展開しているため、周囲の斜面林が視界を包み込んでおり、都市部ながら美しい緑地帯だ。斜面林と河川空間が連続した構造になっているため、野鳥も多くみられる。また、構造物の越流堤も周囲と調和できるよう、階段の取り付け、護岸との接続部などの処理がデザインとしても美しいつくりになっている。2つ目は人が集う工夫。この場所は遊水地でありながら、普段は池や小川があり、親子のザリガニ釣りやおじさんの魚釣り、犬の散歩など多くの人を訪れる親水公園になっている(写真2)。あんまり気持ちいい場所なので僕らも長居してしまい、遊水地内の広場で昼食。みんなそれぞれ斜面の気に入った場所に座っておにぎりを頬張っていた。そして3つ目は周囲への配慮。この場所は遊水地建設に伴い、土地を掘り下げるため、周囲の地下水位を低下させる恐れがあった。そのため周囲を地上からはみえない連続地中壁で囲み、地下水位を維持する構造にし、目にみえないところまで配慮している。知れば知るほど、よくできているこの計画。実は1987年に計画されたものである。僕が生まれた年の頃にこんな計画が進行されていたかと思うととても誇らしく思えてきた。水を貯めるにも美しくありたいという当時の河川技術者達のメッセージが詰まった遊水地。皆さんも一度行けばそのメッセージがひしひしと伝わってくるはず。



写真1 宮沢遊水地（左）和泉川（右）



写真2 人が集平常時の宮沢遊水地

か必死なようで、5月の水の冷たさなど気にならない様子。これがいわゆる『川ガキ』ってやつだ。最近、全国的に川ガキが減り、絶滅が心配などと言われるが、和泉川にはまだひそかに絶滅危惧種『川ガキ』は残っていた。

川に夢中な川ガキ達をもぐり橋の上から眺めていたら、犬の散歩のおばさんが通りかかった。「本当にこの川は変わりましたよ。私は昔からここに棲んでいるけど、ほんとに住みやすくなってね、ああやって子供達がいつも遊んでいるんですよ。」犬とともに橋の上で立ち止まり、川ガキ達をみて目を細めた。川が美しいと川ガキが棲みつく。川ガキがいると地域も元気になる。地域が元気だと川も元気。そんな完成系が関ヶ原の水辺にはあった。



写真3 休日の遊び場は関ヶ原の水辺

3. 関ヶ原の水辺に棲む絶滅危惧種

宮沢遊水地を後にし、再度上流へ。次なる河川再生の場所、関ヶ原の水辺に到着。水際にはヨシやガマが茂り、その斜面からは川に木がせり出してきている。小川の小さな橋の上に、小さなバックと靴が2つずつちょこんと並べておいてあった。誰の荷物だろうかと思っていたら、すぐに答えは見つかった。川の中で金魚網を振っている女の子2人の姿があった（写真3）。さらに上流のほうには少し大きなタモ網を持った男の子らが3人、慣れた手つきで水中に網を入れている。何が取れるか聞いてみたら、ザリガニが多く採れるポイントらしい。知り合いの方で和泉川の瀬谷区付近で育った40代の方がいるが、やはりザリガニを採って遊んでいたらしい。僕も川こそ違おうが、幼少期はまちの中の川でザリガニを採って遊んでいたのを思い出す。やはりどの時代もザリガニ採りにはロマンがあるらしい。本来なら、在来の水生生物がメインのほうがベターなのかもしれないが、川の中を堂々と闊歩する赤いギャングの姿は世代を超えて魅力的なようだ。それにしても子ども達は相当真剣だ。相手が川の中を自由に動き回るだけに子どももどうやって追いつめる

4. 河川技術者の豊かな想像力と未来の河川像（東山の水辺）

おばさんや子ども達と別れ、川沿いをさらに上流へ歩く。東山の水辺に到着。東山橋まできたところで吉村さんが足を止めた。「皆さん、このパネルを見て下さい。」そう言って吉村さんが取り出したのは鋼矢板で囲まれた水路のような無機質な川の写真だった（写真4）。「実はこれ、20年前のこの場所なんです。」過去の写真では、川と家との距離がなく、密着した圧迫感のある空間になっていたのが、十分な川幅を確保したことにより現在は開放的な空間に生まれ変わっている（写真5）。

現在と過去の場所がこんなにも劇的に変わった川の写真は初めてみた。これほどまでに川は変わることができるのかと身震いするほどの感動を受けた。「すごいでしょ？この想像力。どぶ川だったこの（過去）の川にあなたはこれだけ（今）の未来を描けますか？」と吉村さんは誇らしげに笑ってみせた。吉村さん達河川技術者の豊かな想像力と必ず変わると信じている心があれば到底この風景は生まれなかつたらう。左岸

の斜面林の連続する地形に合わせた河道処理をし、自然な河川空間が生まれている。また桜並木が河川の空間と住空間を切り離し、プライバシー空間確保の役割を担っており、景観配慮と住空間の快適性の追求に事欠かない。河川技術者の底知れぬ想像力と技術力に感服するばかりだ。

全国に未だたくさんあるどぶ川。あなたならどんな河川の未来像を描きますか？



写真4 施工前の東山の水辺（当日配布資料より）



写真5 現在の東山の水辺

5. 直線化した川にも少しの演出

少し電車で移動して、いずみ中央駅で下車。駅をでてすぐのところに地蔵原の水辺がある（写真6、写真7）。ここは川こそ、直線化された典型的な都市河川であるが、ちょっとした一工夫で人が川に集まる場所になっている。地蔵原の水辺は1994年に建設された水辺公園であり、川と隣接するかたちで水に触れあえるため、親子連れが多く訪れる。

水辺には、生物池と水遊び池の2種類があり、本川に直接入らずに浅い場所で水遊びができるので、小さい子の水辺デビューには絶好の場所になっている。また公園の隅々にも工夫が施されており、半月型の花壇や、階段状の水辺空間などデザイン性が非常に高い。用地確保等で東山の水辺ほど劇的に変わることができ

なくても、少しの工夫と演出で川は魅力的な空間になる。日本の各地の都市河川への特効薬はこれかもしれない。



写真6 和泉川左岸側に併設された地蔵原の水辺



写真7 人が憩う地蔵原の水辺

6. 2人の河川技術者の功績

川を軸としたまちづくりをコンセプトとして1987年に和泉川河川整備基本計画案が提案され、1991年には、建設省（当時）のふるさとの川整備事業にも採択された。今でこそ、『川まちづくり』という考え方が目指す理想形として描かれることが多いが、当時として、そして今でも最先端の川づくりの考え方だ。この計画を推し進めるにあたって活躍したのは河川技術者達であるが、ここではお二方について言及したい（写真8）。

一人は先ほどより文中に登場する吉村伸一さん。横浜市の土木職員として、和泉川改修計画の仕掛け人ともいえる。和泉川のように、川とまちを一体とした川づくりを進める場合、道路、緑地、公園、住宅など川以外にも様々な要素があるため、道路局、緑政局、都市建設局など様々な部局との調整が必要で、縦割りな行政の性質上、当時は容易なことではなかった。それをうまくまとめあげ、計画を推し進めた。河川技術者の役割を越えた広域的な調整を買って出た吉村さん。「い

やあ、当時は必死だったよ。」と笑って過去を振り返る。和泉川改修の功労者の一人なのは間違いない。

そしてもう一人、設計コンサルタント側（受注者）の立場で和泉川改修に尽力された橋本忠美さん。橋本さんは主に空間設計を担当し、和泉川をどういう風にデザインするかを計画するのに、小学生に意見を求めた。対象としたのは小学4年生。友達と遊ぶ活動範囲が少し広がりかつ、塾にも通っている子が少ないこの学年であれば、川に近づく機会も最も多いだろうという予測のもとだ。和泉川流域ワークショップを開催し、どこで遊んでいるか、どの程度水遊びをしているか、川への願いはどんなものかなどの意見をそれぞれ分析し、ニーズをつかんだ。主成分分析の結果、浮かび上がってきたのは、『川の周りに広がる風景イメージ』、『水の流れや岸辺のイメージ』など。現在の多自然川づくりでも大事にされる要素である。子供達は感覚的にいい川を知っており、川の空間デザインに敏感な美的感覚を有していることが分かる。

橋本さんは子供の理想に近づけるべく、構造物一つにもコンセプトを見出し、細かな配慮をしながら施工を統括した。その結果、宮沢遊水地のような周囲に溶け込んだ施工処理をした越流堤、地蔵原のような水遊びと生物遊び両方できる水辺の空間などが完成した。この整備事業は高く評価され、2005年には土木学会デザイン賞において、最優秀賞を受賞している。

行政内部の横断的連携を可能にした吉村さんと確実なニーズを把握し、かたちにした橋本さん。この両者の活躍が現在の表情豊かな和泉川を創り出した。



写真8 和泉川改修に携わった吉村氏(左)と橋本氏(右)

7. 和泉川に乾杯！

地蔵原の水辺を見終わったところで今日の見学が終了した。一通り終了したところで、参加者みんなで打ち上げ。しかし、川系仲間の打ち上げの仕方は少し違

う。みんな好きな飲み物一本買ってきて、地蔵原の水辺に足を浸しながら一杯。水辺で飲むラムネはまた格別だ。水辺で隣に座った山梨県からいらした方や他大学の研究室の人らと仲良くなった。川の行事は川友が増えるからやめられない。40人の参加者ととも、川の未来を描いた河川技術者達と川ガキを育てている和泉川に乾杯！（写真9）



写真9 和泉川に乾杯！

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC（青少年博物学会）、大学時代ではJOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『郊外の湖沼・河川流域における社会変化に伴う流域管理のあり方に関して』と題し、流域の水質・水量の将来予測や河川市民団体の特性について研究中。最近のお気に入りには研究室で飼っているスジエビがエサを摂る姿をみること。



水辺からのメッセージ No.37

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

微地形の変化を楽しむ：
樹林の暗がり、水際の植生、陽あたりの緩斜面など、水辺がつくる多様性



撮影：2012年5月（茨城県・古河市古河総合公園）

◆深い森の緑に包まれる充足感

多様な表情を表す雑木林は御所沼の静水面に深く影を落として、水の色にも微妙な変化を与えています。人がつくり出した自然生態系に身も心もゆだねているようです。新緑のグラデーションはこの季節ならではの魅力です。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2012年5月末までの提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■『国際河川修復短期研修』(7/4-5 開催)

JRRN 会員であるニューメキシコ大学/マーク・ストーン様市より御提供頂いた研修セミナー情報です。



- 日時：2012年7月4日(水)～5日(木) 9:00～16:00
- 会場：第一サニーストンホテル (大阪府)
- 主催：ニューメキシコ大学 マーク・ストーン教授
- ◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/603.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■『水害防止の止水板』ご紹介

JRRN 団体会員である「たきもと」様より「水害防止の止水板」に関する製品情報を御提供頂きました。



※本件に関するお問い合わせは情報提供者まで直接お願い致します。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/593.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第168回】

- ◆テーマ：「いきものから知る都市河川の変化」
- ◆講師：福嶋悟(ふくしまさとし)氏 (藻類研究所 分析センター センター長)
- ◆日時：2012年6月4日(月) 18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/553.html>

【第169回】

- ◆テーマ：「東日本大震災で考えたこと～400万人が住む東京・名古屋・大阪のゼロメートル地帯が危ない～」
- ◆講師：青山俊樹(あおやまとしき)氏(公益社団法人 日本河川協会 理事)
- ◆日時：2012年7月23日(月) 18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館(全国土木建築健保)(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/564.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「ミシガン湖への外来種の侵入防止の対策案の公表」その後にに関する報道記事紹介

JRRN 個人会員の(株)日建技術コンサルタント・益倉克成様より、「米国ミシガン湖への外来種の侵入防止の対策案の公表」にその後にに関する報道記事を御提供頂きました。



◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/615.html>

【海外からの提供情報】

■「ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) の最新ニュースレター (5月特別版)」ご紹介

ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) の最新ニュースレター (2012年5月号) 「第6回世界水フォーラム特集号」を ECRR 事務局より送付頂きました。



日本の河川再生に向けた仕組みを考える上でも役立つ知見が濃縮されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/609.html>

【海外からの提供情報】

■「RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (Bulletin)」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2012年4月号) を RRC 事務局より送付頂きました。



本号では、2012年4月に開催されました「第13回 RRC 年次講演会」開催報告などが紹介されています。

◆詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/588.html>

会議・イベント案内（2012年6月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（河川再生に関する主なイベント）

■生物多様性シンポジウム～みんなで考える倉敷の生きものとの私たちのみらい～

○日時：2012年6月2日（土）13:00-16:30
○主催：倉敷市、財団法人自治総合センター
○場所：水島愛あいサロン（倉敷市環境交流スクエア）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1395.html>

■第168回河川文化を語る会『いきものから知る都市河川の変化』（P8参照）

○日時：2012年6月4日（月）18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/991.html>

■2012年度・河川技術に関するシンポジウム

○日時：2012年6月21日（木）～6月22日（金）
○主催：土木学会（担当：水工学委員会河川部会）
○場所：東京大学農学部弥生講堂
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1442.html>

■市民参加のいい川づくりシンポジウム - 広めよう多自然川づくり

○日時：2012年6月23日（土）10:00～16:30
○主催：新河岸川水系水環境連絡会
○場所：朝霞市リサイクルプラザ 他
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1439.html>

■国際河川修復短期研修（P8参照）

○日時：2012年7月4日（水）～5日（木）9:00-16:00
○主催：ニューメキシコ大学都市工学教授・博士 マーク・ストーン氏
○場所：第一サニーストンホテル（大阪府）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1427.html>

■沖縄における河川の自然再生とワイズユース

○日時：2012年7月13日（金）～7月14日（土）
○主催：応用生態工学会
○場所：浦添市でだこホール市民交流室 他
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1444.html>

■第169回 河川文化を語る会『東日本大震災で考えたこと～400万人が住む東京・名古屋・大阪のゼロメートル地帯が危ない～』（P8参照）

○日時：2012年7月23日（月）18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1364.html>

■東京の川を考えるシンポジウム2012

○日時：2012年7月31日（火）13:30～16:30
○主催：東京都建設局
○場所：都庁都民ホール（都議会議事堂1階）
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1436.html>

書籍等の紹介

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2（2012.2 発刊）

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・監修：ARRN 技術委員会
- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・価格：無料



※本冊子の入手方法

本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせていただきます、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■ 多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する河道計画の技術基準;解説(2011.10 発刊)

- ・著者：多自然川づくり研究会
- ・編集：（財）リバーフロント整備センター
- ・発行：公益社団法人 日本河川協会（2011/10）
- ・価格：¥2,500（税込）



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第3弾として、技術基準改定（平成22年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブックIIの内容に見直しを加え再編集されたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

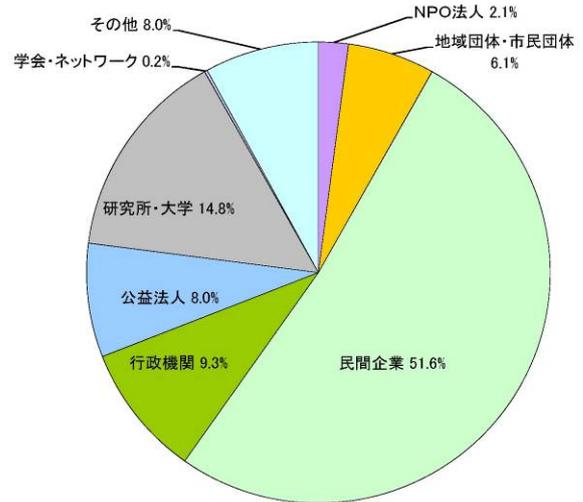
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2012年5月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：556名、団体会員数：45団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
 公益財団法人リバーフロント研究所 内
 〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階
 Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

